

2026 年度ゼミ（演習 2A／演習 2B）要覧

担当者名	森 あおい
演習テーマ	多文化主義の視点から読み解くアメリカ
校外実習	<p>1、実施しない 2、実施（実施時期： 2026 年 9 月） (実習先： アメリカ合衆国ワイオミング州、コロラド州等)</p>
メール・アドレス	aomori53@k.meijigakuin.ac.jp
オフィス・アワー	<p>本年度はサバティカル中のため、通常のオフィスアワーは設定していませんが、以下のようにオンライン(Teams)でゼミの説明と質疑応答の時間を設けます。授業の進め方や校外実習の概要、また 2027 年度のゼミの移動のことについても説明しますので、森ゼミへの変更を検討している人は、必ず出席してください。リアルタイムで出席できないために、録画する予定です。</p> <p>日時 2025 年 11 月 21 日（金曜日） 12:35～ Teams: 「森ゼミ(合同)」11/21 演習 2 説明会 チームコード: zqkfym6 *事前予約の必要はありません。</p>
2027 年度に開講しない可能性 (研究サバティカル)	あり。（2026 年度末で退職のため、2027 年度はゼミの変更が必要になります。）
授業概要	建国以来、多くの移民たちを受け入れ、多様な文化が混交し、民衆の暮らしに根差した力強い文化が生成されてきたアメリカで、第 47 代大統領ドナルド・トランプによって、移民たちの強制送還や多様性・平等性・包摶性を示す DEI (Diversity, Equity, and Inclusion) 方針の撤廃など、他者排除や多様性の否定が急速に進み、異なった背景を持つ人々の間の分断がますます深まっている。本演習では、このような分断の時代にあって、抑圧された人々のレジリエンスと彼・彼女たちの自己解放の文化表象についてアメリカ文化史を踏まえて論じる。特に人種やジェンダー、階級、宗教、環境等の問題をマイノリティの視点から検証し、多様な文化が共存する多文化主義の可能性と課題を考察する。研究対象としては、小説、雑誌・新聞記事、映画や音楽などを取り上げる。
学習目標	アメリカ文化研究を進める上で重要な知識を身に付けることを学習目標とする。今日のアメリカの多文化社会における社会事象を捉えた上で、特に社会的マイノリティの文化発信についての理解を深める。プレゼンテーションやディスカッションを通して、アメリカ文化に関する問い合わせに対する答えを自ら発見し、把握する力を身につける。

授業計画	<p>演習 2A</p> <p>第 1 回 Introduction、アメリカ文化の概要</p> <p>第 2 回 第 1 章「アメリカン・ドリーム」： 新天地アメリカの夢と悪夢</p> <p>第 3 回 『グレート・ギャッツビー』に見るアメリカン・ドリーム、小説と映画の比較（論文講読）</p> <p>第 4 回 第 2 章「信仰とアメリカの国民生活」： アメリカ文化・社会におけるピューリタンの影響、魔女狩りと『非文字』—ピューリタンの不寛容と他者排除のメカニズム</p> <p>第 5 回 第 3 章「西部開拓の夢」—「明白な天命」とアメリカの膨張主義、ネイティヴ・アメリカンの歴史</p> <p>第 6 回 第 4 章「移民の国アメリカ」—アメリカの移民政策</p> <p>第 7 回 第 5 章「奴隸制とアメリカ南部」： 奴隸制の背景と南北戦争後の南部再建</p> <p>第 8 回 図書館ガイダンス</p> <p>第 9 回 日系アメリカ人の歴史と強制収容所（論文講読）</p> <p>第 10 回 ネイティヴ・アメリカンと環境問題（論文講読）</p> <p>第 11 回 奴隸解放運動から Black Lives Matter へ（論文講読）</p> <p>第 12 回 アメリカの国立公園から考えるナショナリズムとツーリズム（論文講読）</p> <p>第 13 回 課題に関するプレゼンテーション</p> <p>第 14 回 特別学修日　まとめ</p> <p>9月 校外実習上旬～中旬</p> <p>演習 2B</p> <p>第 1 回 イントロダクション</p> <p>第 2 回 夏休みの課題（ブックレポート）の報告</p> <p>第 3 回 第 6 章 都市と経済： 都市の発展とスラムの形成</p> <p>第 4 回 第 7 章 ハイブラウとロウブラウ： ポップカルチャーに見る文化の融合</p> <p>第 5 回 第 8 章 冷戦とベトナム戦争期の対抗文化： 反戦運動と公民権運動から見るメディアの役割</p> <p>第 6 回 特別授業</p> <p>第 7 回 第 9 章 環境： アメリカのナショナル・アイデンティティとしての自然</p> <p>第 8 回 第 10 章 文化的変容： 「文化の変容」： 女性の権利拡張と性の多様性</p> <p>第 9 回 セクシュアル・マイノリティ 『ハーヴェイ・ミルク』（映画）、卒論執筆計画について</p> <p>第 10 回 第 11 章 マルチカルチャラリズム： 多文化主義とアイデンティティ・ポリティックス</p> <p>第 11 回 第 12 章 犯罪・暴力・抑圧： ヘイトクライムと銃規制問題</p>
------	---

	<p>第12回 第13章 身体文化: メディアの身体表象に見る「男らしさ」と「女らしさ」の神話</p> <p>第13回 卒論テーマに関するプレゼンテーション</p> <p>第14回 特別学修日まとめ</p> <p>1月中旬～下旬 森ゼミ卒論報告会</p>
予習	授業で扱う資料を読み、ディスカッションのトピックを考える
復習	授業の内容を振り返り、リアクションペーパーを書く
授業に関する注意事項	演習2は、校外自習(2026年9月実施予定)の参加を前提に進めていきます。
教科書	『概説アメリカ文化史』 ミネルヴァ書房 2002 その他、配布資料
参考書	<p>青柳清孝 「プロ・ラグーナの辿った道」『立教アメリカン・スタディーズ』 pp. 7-20.</p> <p>明石紀雄他編 『21世紀アメリカ社会を知るための67章』 明石書店、2014.</p> <p>荒このみ 「日系アメリカ人強制収容とアンセル・アダムズの写真記録」『立命館言語文化研究』 23(1), 47-90: 2011-09.</p> <p>角山 照彦訳 <i>Screenplay Milk</i> フォーイン・スクリーンプレイ 2009.</p> <p>バーダマン、ジェームズ 『アメリカ黒人史—奴隸制からBLMまで』 築摩書房 2020.</p> <p>フリーダン、ベティ 『新しい女性の創造』 三浦 富美子訳 大和書房 1963. <i>The Feminine Mystique</i>. 2004.</p> <p>森あおい 「『青い眼がほしい』再読—時空を超えて甦るある少女の物語」『ユリイカ』 青土社 2019. 10. pp. 73-83.</p> <p>他</p>
成績評価の基準	授業への参加度 30%、プレゼンテーション 40%、レポート 30%
関連 URL	
認定留学期間中の遠隔指導	可 / <input checked="" type="checkbox"/> / その他()
備考（重要！）	<p>「所属変更届」を提出する際には、「自己紹介（興味関心など、自由記述）」欄に、「自己紹介」に続けて以下の内容を含めたゼミの「志望理由」(1,000字程度)を書いてください。(ファイルは1つにまとめてください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習1を含めて、これまでの大学の学びでどのような知見を得たか ・このゼミでどのようなテーマを探究したいと考えているか ・校外実習に参加できるか ・このゼミでどのような役割を果たすことができると考えているか <p>締め切り： 2025年12月10日</p> <p>提出先：国際学部事務室 kokusajimu@ed.meijigakuin.ac.jp</p> <p>メールタイトル：学籍番号_所属変更届（例：23KS9999_所属変更届）</p>